

芸術支援研究の拡がり 教育と社会における実践 Studies in Art Environment Support Practices in Education and Society

教育と社会において展開される芸術支援の取り組みを、本学出身の実践者・研究者による展示と資料で紹介します。

[出展者]

秋田 美緒 浅野五月 石崎和宏 市川寛也 光山 明 澤田浩子
高橋沙也葉 竹本理美 直江俊雄 中川三千代 新山聖也 羽原康恵
牧野由理 松崎仰生 吉田奈穂子 廖 曦彤

2025年4月7日(月) - 5月29日(木)
筑波大学アートスペース(大学会館内)

開館時間 9:00-17:00 休館:土・日・祝日

Monday, April 7, 2025 - Thursday, May 29
University Hall Art Space, University of Tsukuba, Japan
Open 9:00-17:00 Closed on Saturdays, Sundays, and National Holidays

筑波大学 芸術50周年記念企画
The 50th Anniversary Exhibitions Faculty of Art and Design, University of Tsukuba

企画:芸術支援領域 Organized by the Art Environment Support



芸術支援研究の拡がり 教育と社会における実践

本展示では、筑波大学芸術50周年記念企画の一環として、教育と社会において展開される芸術支援の取り組みを本学出身の実践者・研究者によるパネルと資料で紹介します。

芸術支援は、かつての筑波大学大学院博士課程芸術学研究科（5年一貫制、1976年創設）における「美術論」「芸術教育学」の教育・研究領域にその淵源があります。2003年には芸術専門学群に「特別カリキュラム芸術支援学」が誕生、現在では学群と大学院芸術学学位プログラムに、「芸術支援領域」として位置づけられています。

本展示の出展者には、主に芸術支援領域の卒業生・修了生や連携する研究者を迎え、社会の様々な現場に拡がる実践と研究の現在を示すことを目指しました。

本展示を契機に、次の世代に向けて、新たな発展への発想や連携をつなぐことができればと願っております。

2025年4月 主催者

石崎和宏	筑波大学教授	美術鑑賞学習における思考の可視化方略
直江俊雄 竹本理美 新山聖也 澤田浩子	筑波大学教授 淑徳大学講師 筑波大学研究員 筑波大学准教授	高校生によるアトライトニングの言語的特性 指示詞と体言止めによる体験共有への志向をめぐる
直江俊雄	筑波大学教授	芸術的行為としての教育実践
吉田奈穂子	筑波大学助教	シュタイナー学校における造形教育に関する研究とその応用
吉田奈穂子	筑波大学助教	芸術支援活動の意義—夏休みアート・マルシェの取り組みから—
中川三千代	筑波大学研究員	1920年代日本の地方都市におけるフランス美術展の展開
中川三千代	筑波大学研究員	エルマン・デルスニスと黒田鵬心による「仏蘭西現代美術展覧会」の開催と日仏芸術社
秋田 美緒	国立西洋美術館研究員	ジュニア・パスポート、手渡しの20年—国立西洋美術館の企画展における小中学生向けブックレットの開発・配布の取り組み
秋田 美緒	国立西洋美術館研究員	美術科教育と地域美術館活動を両立させるアーティスト・イン・スクール事業—地域行政組織に属するコーディネーターの視点から—（博士論文概要）
浅野五月	アーツカウンシル東京 （公益財団法人東京都歴史文化財団）	芸術文化政策の実践
市川寛也	金ヶ崎芸術大学学校代表	社会に開かれた美術教育実践に向けて～「図工のあるまち」を中心に～
市川寛也	群馬大学准教授	私の実践技法—《放課後の学校クラブ》をふりかえる
光山 明	茨城県坂東市立七重小学校長	地域資源の教材化による美術教育の可能性
高橋沙也葉	京都大学大学院人間・環境学 研究科博士後期課程	アート、労働、ジェンダーの問題を考える ——『アートワーカーズ』翻訳プロジェクト他
羽原康恵	特定非営利活動法人取手アートプロジェ クトオフィス包括ディレクター・理事	創造的中間支援組織としてのアートNPO
牧野由理	埼玉県立大学准教授	明治期日本の教育掛図とドイツ博物学書の関係
松崎仰生	筑波大学附属病院アートコー ディネーター	医療現場で展開される芸術支援 —筑波大学附属病院アートコーディネーターの実践事例—
廖 曦彤	山形大学講師	福島県「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」におけるワークショップ実践